

基礎研  
レター

## 2024年3月、グローバル株式市場は上昇が継続

金融研究部 准主任研究員 ESG推進室兼任 原田 哲志  
(03)3512-1860 harada@nli-research.co.jp

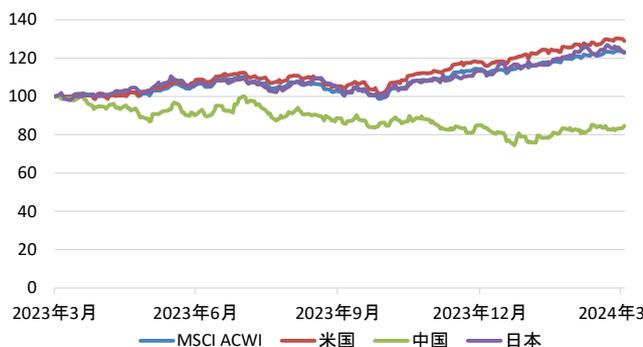
## 1——2024年3月、グローバル株式市場は上昇が継続

2024年3月、グローバル株式市場は堅調な推移となった。3月下旬、米FRB(連邦準備制度理事会)が政策金利見通しで年3回としていた利下げ予想を維持したことやAIブームを背景としたハイテク株高の流れなどが株式市場を支えた。代表的な世界株指数(含む新興国)であるMSCI All Country World Index(MSCI ACWI)のリターンは2024年3月+3.2%(米ドル建グロス配当込み)<sup>1</sup>、過去1年(2023年4月-2024年3月)も+23.8%と上昇が続いている(図表1)。

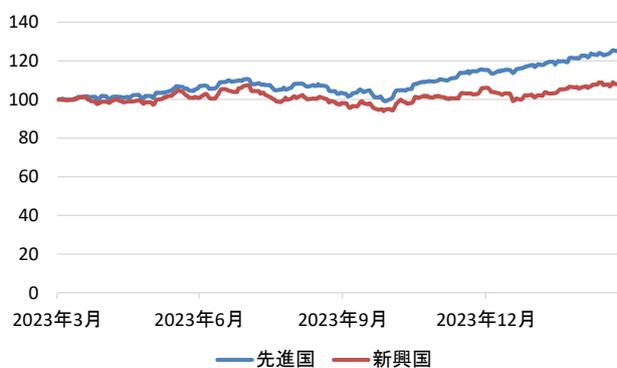
2024年3月、先進国と新興国を比べると、新興国は先進国と比較して低いリターンにとどまった。先進国(MSCI World Index)が+3.3%、新興国(MSCI Emerging Markets Index)が+2.5%となった(図表2)。

グロース・バリューでは、グロース指数(MSCI ACWI Growth Index)が+2.1%、バリュー指数(MSCI ACWI Value Index)が+4.4%とバリュー優位となった(図表3)。企業規模別では、大型株(MSCI ACWI Large Cap Index)が+3.1%、中型株(MSCI ACWI Mid Cap Index)が+3.6%、小型株(MSCI ACWI Small Cap Index)が+3.4%と中型株が最もパフォーマンスが高かった(図表4)。直近1年程度では、2月までは大型・グロース優位の展開が続いたが、3月はやや異なる傾向となった。

図表1 世界株指数の推移



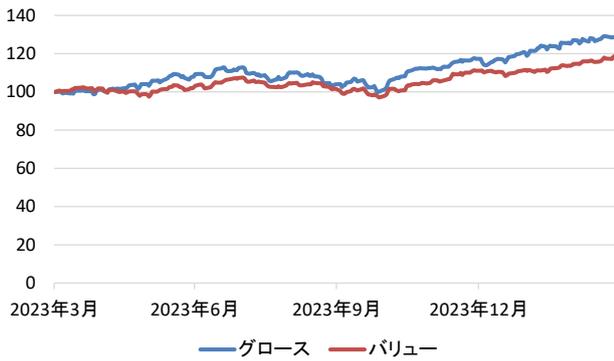
図表2 先進国・新興国指数の推移



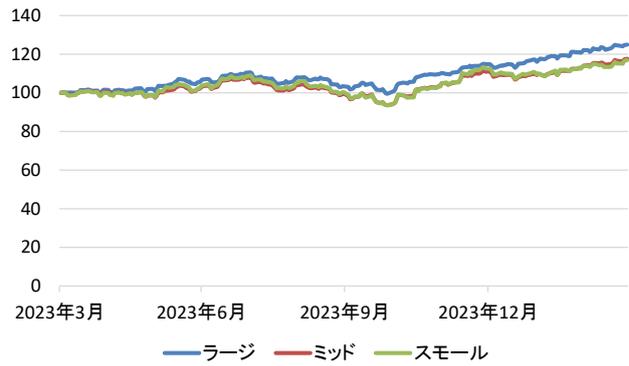
(注) 期間:2023年3月末~2024年3月末 米ドル建 グロス配当リターン 開始時点をもとに筆者作成  
(出所) Bloomberg のデータをもとに筆者作成

<sup>1</sup> 以下、特に断りのない限りリターンは米ドル建グロス配当込みを示す。

図表3 グロス・バリュー指数の推移



図表4 企業規模別指数の推移



(注) 期間:2023年3月末~2024年3月末 米ドル建 グロス配当リターン  
開始時点を100とした累積リターンの推移を示す。  
(出所) Bloomberg のデータをもとに筆者作成

## 2—国・業種別の動向

2024年3月は国別に見ても上昇した国が多かった(図表5)。アルゼンチン(+12.7%)、スペイン(+11.5%)、コロンビア(+10.6%)がリターンが高かった。一方で、エジプト(▲33.0%)、香港(▲6.5%)、カタール(▲4.2%)がリターンが低かった。主要国について見ると、米国(+3.2%)、ドイツ(+4.0%)、日本(+3.3%)となった。

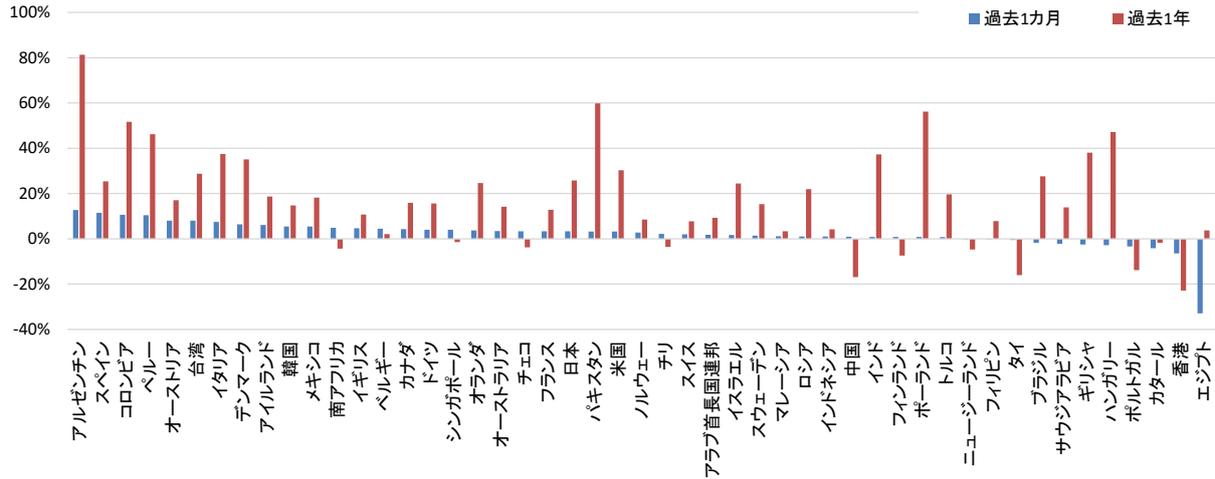
大幅な下落となったエジプトでは、当局は従来1ドル30エジプトポンド前後で為替相場を管理していたが、為替相場を市場に委ねる方針に転換したことで1ドル47エジプトポンド(3月末時点)まで大幅な通貨安となったことが影響した。香港株式市場は下落傾向が続いており、過去1年では▲22.9%となっている。

アルゼンチンでは中央銀行が大幅な利下げを発表、インフレの抑制が期待されたことなどから3月は上昇した。

業種別に見ると、エネルギー(+8.0%)、半導体・半導体製造装置(+7.5%)、不動産(+6.6%)がリターンが高かった。一方で、自動車・自動車部品(▲2.6%)、テクノロジー・ハードウェアおよび機器(▲0.1%)、耐久消費財・アパレル(±0.0%)がリターンが低かった(図表6)。

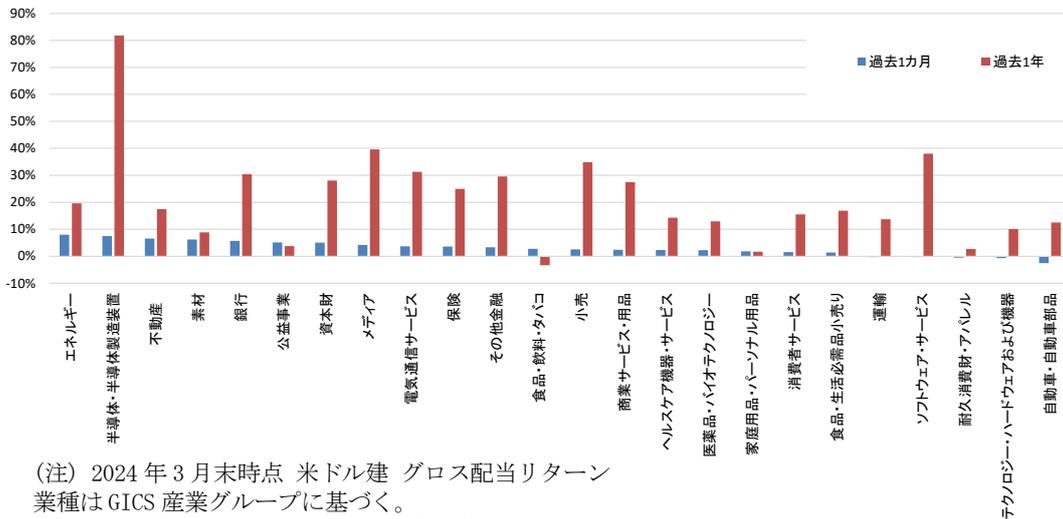
イスラエルでの地政学リスクの高まりを背景とした原油価格の高騰からエネルギーが上昇する一方で、電気自動車の販売不調が指摘される自動車・自動車部品などが下落した。

図表5 各国の株式市場のリターン



(注) 期間: 2023年3月末~2024年3月末 米ドル建 グロス配当リターン  
 各国のリターンはMSCI 国別指数のリターンを示す。ただし、ロシアは RTS 指数を示す。  
 (出所) Bloomberg のデータをもとに筆者作成

図表6 業種別リターン



(注) 2024年3月末時点 米ドル建 グロス配当リターン  
 業種はGICS 産業グループに基づく。  
 (出所) Bloomberg のデータをもとに筆者作成

### 3—世界の主要企業の株価動向

世界の主要な企業の株価について見ると幅広い銘柄で株価が上昇した(図表7)。時価総額上位 30位の企業では、エヌビディア(+16.3%)、オラクル(+12.5%)、TSMC(+12.1%)のリターンが高かった。一方で、テスラ(▲13.0%)、アップル(▲5.5%)、ビザ(▲2.3%)のリターンが低かった。エヌビディアは生成AI向けGPUの需要増加などを背景に好調な決算を発表したことから上昇が続いている。一方で、テスラは同社が製造・販売する電気自動車の需要の衰退懸念などから下落傾向が続いている。

図表7 世界の主要企業の株価動向

社名	所在国	業種	時価総額 (億米ドル)	リターン (過去1カ月 %)	リターン (過去1年 %)
1 マイクロソフト	米国	ソフトウェア・サービス	31,261	3.2	53.9
2 アップル	米国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	26,480	-5.5	9.3
3 エルピーデア	米国	半導体・半導体製造装置	22,589	16.3	241.1
4 サウジ・アラビアン・オイル	サウジアラビア	エネルギー	19,905	-1.5	10.4
5 アルファベット	米国	メディア・娯楽	18,846	10.7	49.2
6 アマゾン・ドットコム	米国	一般消費財・サービス流通・小売り	18,737	4.2	85.2
7 メタ・プラットフォームズ	米国	メディア・娯楽	12,379	0.3	141.6
8 バンクオブ・アメリカ	米国	金融サービス	9,089	2.2	38.1
9 イライリア	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	7,397	2.7	131.8
10 台湾積体回路製造 [TSMC/台湾セミコンダクター]	台湾	半導体・半導体製造装置	6,317	12.1	42.6
11 アロートコム	米国	半導体・半導体製造装置	6,142	3.2	115.9
12 JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	米国	銀行	5,769	8.6	59.6
13 ビザ	米国	金融サービス	5,752	-2.3	27.6
14 ノボ・ノルディスク	デンマーク	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	5,749	6.1	67.2
15 テスラ	米国	自動車・自動車部品	5,599	-13.0	-7.1
16 ウォルマート	米国	生活必需品流通・小売り	4,849	1.3	27.4
17 エクソネービル	米国	エネルギー	4,612	11.4	12.4
18 コナイテッドヘルスグループ	米国	ヘルスケア機器・サービス	4,561	-0.3	6.3
19 LVMHエヘネシー・ルイヴィトン	フランス	耐久消費財・アパレル	4,510	-2.0	3.6
20 マスターカード	米国	金融サービス	4,493	0.6	36.6
21 トヨタ自動車	日本	自動車・自動車部品	4,088	3.8	84.6
22 ASMLホールディング	オランダ	半導体・半導体製造装置	3,846	2.2	52.4
23 プロクター・アンド・ギャンブル	米国	家庭用品・パーソナル用品	3,818	1.4	13.6
24 ジョンソン・エンド・ジョンソン	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	3,812	-2.1	7.4
25 ホーム・デポ	米国	一般消費財・サービス流通・小売り	3,802	2.2	40.1
26 騰訊控股 [テンセント・ホールディングス]	中国	メディア・娯楽	3,673	9.7	-18.8
27 サムスン電子	韓国	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	3,654	11.9	30.5
28 オラクル	米国	ソフトウェア・サービス	3,452	12.5	41.8
29 メルク	米国	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	3,342	3.6	28.4
30 コストコホールセール	米国	生活必需品流通・小売り	3,249	-2.0	54.8

(注) 2024年3月末時点 業種はGICS産業グループに基づく。(出所) Bloombergのデータをもとに筆者作成

#### 4—今後の見通しと注目されるテーマ

グローバル株式市場は上昇が続いているが、地域によって状況はまちまちとなっている。国際通貨基金は2024年4月の世界経済見通しにおいて、「先進国は、成長率が2023年の1.6%から2024年は1.7%、2025年は1.8%へやや加速する見込みである一方、新興市場国・発展途上国は2023年の4.3%から、2024年と2025年はともに4.2%へやや鈍化する見込みで、先進国の加速を相殺する。」と予測している。国際通貨基金は各国中央銀行の利上げにもかかわらず世界経済は堅調なことや中国やその他の新興国の成長見通しが弱い点を指摘している<sup>2</sup>。こうした要因がグローバル株式市場に与える影響に引き続き注視していきたい。

<sup>2</sup> 国際通貨基金, 「世界経済見通し 安定かつ緩慢まちまちな様相の中、強靱性も 2024年4月」, 2024年4月

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。